

巻頭言

福山平成大学 福祉健康学部
健康スポーツ科学科長 石橋 勇

2006年3月に第1巻が発行され、今回で第18巻となりました。この18年間途切れることなく、福祉健康学部の歴史とともに本学部の研究成果が社会に公表できたことは大変喜ばしいことだと感じております。今回、掲載された投稿論文は18編あり、社会福祉学分野、教育学分野、健康・スポーツ科学分野と学科構成に則った投稿論文が掲載されております。

2022年はコロナ禍となり3年目の年で、明確な出口は見えないものの2020年から比較して新型コロナウイルスの特性が分かってきました。更にワクチン接種の状況が進んだこともあり、政府もWithコロナに向けた政策の考え方を公表しました。このような背景から国民の行動制限や経済活動の制限の見直しが行われるようになり、社会・経済活動が正常化の動きに進んでいます。このような明るい兆しが見える中で国際社会では、ロシアによるウクライナへの侵攻や中国と台湾の問題、北朝鮮のミサイル発射など、人類にとって新たな課題が勃発しました。更に国内では、半導体不足や円安に伴う物価高が起り、先行き不透明で混沌とした社会となっています。このような社会の中で、国や社会全体を支えていくために必要なことは教育活動と言えます。我々、地域にある大学では研究活動を通じて地域社会に貢献できる人材育成を行うことが大変重要であると考えています。この福祉健康科学研究を礎にしながら、今後も本学の教育理念を身につけた学生を輩出し、地域社会に貢献したいと願っております。

最後になりましたが、福祉健康科学研究第18巻を発刊するにあたり、投稿して頂いた先生方、査読して頂いた先生方、また紀要委員長の中嶋裕子教授を中心に発刊までに様々な業務に携わって頂きました紀要委員会の先生方に感謝申し上げます。